

別表第2
建築社会デザイン工学科

(平成22年度入学者用)

区分1	区分2	授業科目	単位数	1年	2年	3年	4年	5年	備考	
必修科目	基盤科目	工学入門	2	2						
		創造演習	2	2						
	専門基礎科目	測量学及び同実習I	2	2						
		測量学及び同実習II	2		2					
		建設製材図	2		2					
		設計製図I	2							
		設計製図II	2			2				
		構造力学I	1		1					
		構造力学II	2			2				
		構造力学III	2				2			
		地形情報処理	2			2				
		建築一般構造	2			2				
		土質工学	2			2				
		メデア造形	2			2				
		応用数学	2				2			
		応用物理	2				2			
		鉄筋コンクリート工学	2				2			
		地域及び都市計画	1				1			
		環境エネルギーシステム	1				1			
		応用数学演習	1					1		
	鋼構造工学	2					2			
	技術英語	2					2			
	地球環境工学	1					1			
	総合科目	工学演習	1			1				
		建築社会工学実験I	2			2				
		建築社会工学実験II	2				2			
		建築社会工学実験III	1					1		
		情報処理I	1				1			
		情報処理II	1				1			
		卒業論文	8						8	
	エンジニア総合演習	1			1				1~3年次開講	
	進路セミナー	1				1				
	開設単位合計(33科目)	61	8	7	16	15	15			
選択科目	専門応用科目	建築環境工学	2				2		10単位修得	
		建築設計演習I	2				2			
		建築設計演習II	4				4			
		建築法規	1				1			
		建築施工法I	1				1			
		計画学	2				2			
		水理学	2				2			
		地盤工学	2				2			
		土木設計演習I	2				2			
		ITデザイン演習	2				2			
		建築設計演習III	1					1		
		建築施工法II	1					1		
		建築構造設計	2					2		
		建築設計史	2					2		
		建築計画II	1					1		
		建築設計演習IV	3					3		
		交通工学	1					1		
		河川海岸工学	2					2		
		環境衛生工学	2					2		
		土木施工法II	1					1		
	土木構造設計	1					1			
	土木設計演習II	2					2			
	建築社会工学実験IV	1					1			
	情報化社会論	1					1			
	電気工学演習	1					1			
	ネットワークシステム	1					1			
	環境情報計測	1					1			
	リモートセンシング	1					1			
	環境保全工学	1					1			
	防災工学	1					1			
	地域社会工学	1					1			
	景觀工学	1					1			
	ソフトウェア工学概論	1					1			
	数値解析	1					1			
	画像処理	1					1			
	インターンシップ	1				1		4年か5年で修得可		
	複合工学セミナーI	1				1		4年か5年で修得可		
	複合工学セミナーII	1				1		4年か5年で修得可		
開設単位小計(38科目)	55	0	0	0	23	32				
(履修可能単位)	29	0	0	0	13	16				
特別選択科目	創造セミナー	10	いずれの学年でも修得可							
開設単位小計(2科目)	10	1	2	2	3	2	各学年は参考単位			
開設単位合計(40科目)	65	1	2	2	26	34	各学年は参考単位			
開設単位合計(73科目)	126	9	9	18	41	49	特別選択を含む、各学年は参考単位			
履修可能単位合計	90	8	7	16	28	31	特別選択を除く			

科目名	工学入門(Introduction to Engineering)					対象クラス	建築社会デザイン 工学科1年
教員名 (所属学科)	岩坪要(建築社会デザイン工学科) 上久保祐志(建築社会デザイン工学科) 他学科教員	開講期間	通年	授業形式	講義	科目区分	基盤
教員室位置	専門棟2F	授業時数	60	単位数	2		必修
教科書	テーマごとに資料を配布						
参考書	「土木工学概論」 石井一郎著 鹿島出版会、「建築概論」建築概論編集委員会 彰国社 「ユビキタスとは何か」 坂村健著 岩波新書						
関連科目	1年次の創造演習, 3年次の工学演習, 他全ての専門科目						
科目概要	工学入門はキャリア教育プログラムの一つであり, 高専に入学してきた1年生に対し, これからの工学の学習に対する動機付けを行う目的で, 専門学科共通の工学導入科目として開講する。前半は, 建築社会デザイン工学科が関係する工学分野の内容について, 社会的な役割と分野の紹介を行う。後半は, 広く工学と社会生活との繋がりを学ぶために, これまでの先輩技術者達の苦勞や工夫などを含めた技術史を含めた工学全般に関する講義をする。						
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 建築社会デザイン工学分野の概要を掴み, 在学中に学ぶ内容について理解することが出来る。 2. 土木・建築分野と日常生活と関わりや役割を認識することが出来る。 3. 技術史より, 現在まで技術が発展した時代背景や経緯, 発展内容を理解することができる。 4. 他学科教員の講義より, 他工学分野の概要を学び, 工学と社会との関係を認識することができる。 5. ICT技術の幅広さを知り, 各分野での活用事例を認識することができる。 						
授業方針	前半は建築社会デザイン工学科の学科教員が交代で講義を行い, ビデオ, 実験, バス見学を行いながら, 土木・建築が担当する工学分野について出来るだけ平易に解説する。後半では他学科の教員による他工学分野についての講義を行い, 『工学』の社会的な役割や最先端技術の背景についての講義を行う						
授業項目				授業項目			
1	工学入門ガイダンス			16	プレゼンテーションとは?		
2	快適に安全に暮らす			17	課題発表会(ポスターセッション)		
3	球磨川を見る(バス見学)			18	前半まとめのテスト		
4	自然に耐える			19	学年全体プログラム [学年合同]		
5	よりよい社会を作る			20	機械と人間の歴史 [ME科]		
6	素材の話			21	発明!発見!着想の育て方 [ME科]		
7	実験をやってみよう			22	生活を助ける機械技術 [ME科]		
8	〔中間試験〕(ノート整理)			23	〔中間試験〕(ノート整理)		
9	魅力のある空間を目指して			24	生物・化学技術のはなし(1) [BC科]		
10	建築作品を知る			25	生物・化学技術のはなし(2) [BC科]		
11	建築史 ー建築の歴史ー			26	生物・化学技術のはなし(3) [BC科]		
12	構造物を見る(バス見学)			27	ICT技術のはなし(1) [CE科]		
13	位置を測るICT技術(GPS)			28	ICT技術のはなし(2) [CE科]		
14	動きを調べるICT技術(センサ, 画像処理)			29	ICT技術のはなし(3) [CE科]		
	〔前期末試験〕(ノート整理)				〔後期学年末試験〕(ノート整理)		
15	前期のまとめと夏休み課題について			30	エンジニアへの道(まとめ)		
評価方法及び総合評価	評価は, レポート, 及びまとめのテストで行う。詳細は講義の中で説明する。総合評価は, 各レポートの評価とまとめのテストの評価を平均し算出する。合格点は, 総合評価が60点以上とする。ただし, 指定されたレポートが提出されない場合は, そのレポートの評価は0点として評価するが, 理由がある欠課などによりレポート作成が困難な場合や, 総合評価で不合格となった者に対しては, テーマ担当者として科目担当者との協議を実施し, 定められた期間内に特別指導を行うこともある。						
備考	学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにある工学に関係するもの(製品など)を調べてみる。 ・新聞やニュースなどの中で建築・土木・ICT技術に関係する話題に興味をもつ。 					
	学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> * 初めての専門分野の総合的な科目である。テーマごとに分かりやすく講義を行うので, 積極的に, そして気を楽しんで講義に参加し, 「エンジニアへの道」の扉を開いてもらいたい。 * 質問はいつでも担当教員を尋ねてきて貰いたい。(些細なことでもOK。例えば, 昨日のニュースで・・・など) 					
本校教育目標との対応	(3) (5)		JABEEの学習・教育目標との対応				

科目名	基礎製図(Basic Drawing)					対象クラス	建築社会デザイン 工学科1年
教員名 (所属学科)	勝野幸司(建築社会デザイン工学科) 下田貞幸(建築社会デザイン工学科)	開講 期間	通 年	授業 形式	講 義 演 習	科目区分	専門科目
教員室位置	勝野幸司 専門棟2F 下田貞幸 専門棟2F	授業 時数	60	単位 数	2		必修
教科書	初めての建築製図(学芸出版社)						
参考書	なし						
関連科目	設計製図(2~3年)、創造演習(1年)、建築設計演習(4~5年)						
科目概要	<p>図面は、建築の全ての段階においてこれに関わる人々(施主・設計者・施工者など)の間での情報共有のために必要なものであり、安全かつ快適な建築物を実現するために不可欠なものである。本科目においては木造住宅を主要な題材として設計・製図の基礎知識を学習する。</p> <p>前期は、講義により製図の基本と木造住宅の仕組みを学習した後、図面模写を通じて基本的な製図法を習得する。前期末試験を行い、木造住宅および製図の基本について習熟度を評価する。後期は、設計に慣れるために設計課題を行い、図面作成、設計、模型製作の能力のレベルアップを図る。</p>						
授業方針	授業始めに作図の解説等を該当する配付資料や教科書を使って解説する。板書はメモをとり、補足資料とすること。解説や配付資料では不明な点については、その都度補足説明を行う。尚、各課題は締切を設定し、これを厳守することを重視する。						
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 図面の役割、種類、表現方法を知る。 2. 製図規約を覚える。 3. 基本的な製図法を会得し、丁寧かつ正確に図面を描くことができる。 4. 木造の基本的な製図法を理解する。 5. 図面内容を立体的、体験的、技術的に理解することができる。 6. 木造住宅の設計ができる。 7. 指定された期限までに迅速に課題を完成させ提出することができる。 						
授業項目				授業項目			
1	授業の概要説明、製図の基本	16	課題4	設計課題(ガイダンス・エスキス)			
2	製図の基本	17	課題4	設計課題(エスキス)			
3	製図の基本	18	課題4	設計課題(エスキス)			
4	製図の基本	19	課題4	設計課題(エスキス)			
5	製図の基本	20	課題4	設計課題(エスキス)			
6	課題1 図面模写(平面図・配置図)	21	課題4	設計課題(図面)			
7	課題1 図面模写(平面図・配置図)	22	課題4	設計課題(図面)			
8	課題1 図面模写(平面図・配置図)	23	課題4	設計課題(図面)			
9	課題1 図面模写(平面図・配置図)	24	課題4	設計課題(図面)			
10	課題1 図面模写(平面図・配置図)	25	課題4	設計課題(図面)			
11	課題2 図面模写(立面図・断面図)	26	課題4	設計課題(模型)			
12	課題2 図面模写(立面図・断面図)	27	課題4	設計課題(模型)			
13	課題2 図面模写(立面図・断面図)	28	課題4	設計課題(模型)			
14	課題2 図面模写(立面図・断面図)	29	課題4	設計課題(模型)			
	[前期末試験]			[後期学年末試験]			
15	前期講評、課題3(夏季休業宿題)説明	30		後期講評			
評価方法及び総合評価	課題1~3および前期中間試験の平均(前期)、課題4(後期)を各期の成績とし、前期と後期の平均が最終成績となる。試験及び課題はそれぞれ100点満点で採点するが、提出締切に間に合わなかった課題については60点満点での採点を行う。全課題の提出が単位認定の最低要件となる。						
備考	学習方法	課題は、放課後等を活用し期限内に提出できるよう努める。授業中、重要な事項については、配付資料や板書により教科書の内容を補填するので、資料と板書の復習を次回授業までしておく。					
	学生へのメッセージ	授業時間内は集中して課題に取り組むこと。不明な点を積極的に質問することを期待する。					
本校教育目標との対応	(3)		JABEEの学習・教育目標との対応				

科目名	創造演習 (Practice of Construction Creation)					対象クラス	建築社会デザイン 工学科1年
教員名 (所属学科)	藤野和徳(建築社会デザイン工学科) 齊藤郁雄(建築社会デザイン工学科) 勝野幸司(建築社会デザイン工学科) 岩崎洋平(建築社会デザイン工学科)	開講 期間	通 年	授業 形式	演 習	科目区分	専門基礎
教員室位置	藤野和徳 専門棟1F 齊藤郁雄 共同教育研究棟2F 勝野幸司 専門棟2F 岩崎洋平 専門棟3F	授業 時数	60	単位 数	2		必修
教科書	なし						
参考書	「おもしろ力学」橋本 英文 著 コロナ社						
関連科目	2年次の設計製図Ⅰ, 2年次の建設材料, 2年次の構造力学Ⅰ, 3年次のメディア造形						
科目概要	興味あること・知りたいことの調査, 建築模型の製作, 月面都市建設計画案の作成, つま楊枝を使ったブリッジの作成を通して, 技術者として必要な情報収集能力, 発想力, 創造力, プレゼンテーション能力を養う。						
授業方針	本科目は4つのテーマについて個人またはグループで関わっていく。個人としてのテーマでは興味あることや知りたいことを見出し, 情報収集能力を高める。グループとしてのテーマは, 共同で作業することの面白さや大切さを知り, 他人の意見を尊重し, 発想力・創造力を持って自分の役割を果たし, 一つのものを作り上げる喜びを感じていく。いずれのテーマも最終的には, 調査結果や作品の発表を通して考察力やプレゼンテーション能力を高めていく。						
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 興味あること・知りたいことを見出すことができる。 2. 調査のために様々な手法を用いて情報を収集できる。 3. 建築模型の作成プロセスを通して, 3次元空間をイメージできる。 4. 発想すること, 創造すること, 共同することの面白さや大切さを感じることができる。 5. 力を支えたり, 伝えたり, 利用する技術や仕組みを理解することができる。 6. 調査結果や作品に対する意見を整理し, プレゼンテーションを通して, 他人に伝えることができる。 						
授業項目			授業項目				
1	ガイダンス, 調査テーマの選出		16	ガイダンス, 班分け, 自己紹介, 役割分担			
2	調査テーマの決定, 調査方法の検討		17	計画案作成 (建物・交通・エネルギーなど)			
3	調査		18	計画案作成 (水・食糧・ゴミ処理など)			
4	調査		19	計画案作成 (社会制度・娯楽・スポーツなど)			
5	「調査報告書のまとめ方」についての講義		20	プレゼンテーションの作成			
6	調査報告書の作成		21	プレゼンテーションの作成			
7	発表会, 相互評価		22	発表会			
8	講評会		23	講評会			
9	ガイダンス, 建築模型の作り方, いろいろな建築模型		24	ガイダンス, 製作条件の設定, 班分け			
10	図面の見方と材料の加工		25	ブリッジ作成			
11	材料の加工		26	ブリッジ作成			
12	材料の加工		27	ブリッジ作成			
13	材料の加工・組み立て		28	コンテスト			
14	組み立て・完成		29	講評会, レポート作成			
	〔前期末試験〕			〔後期学年末試験〕			
15	提出・講評会		30	創造演習のまとめ (アンケート)			
評価方法及び総合評価	4つのテーマごとに達成度に応じて評価を行い, 平均する。						
備考	学習方法	日頃から興味のあること・知りたいことを見だし情報を収集してみることで, また, 建物や構造物に対して興味を持ち, どのようにして作られているのか, どこに工夫があるのかを観察しておくこと。					
	学生へのメッセージ	考えることの面白さ, ものづくりの楽しさを体験しよう。 身近なものを建築的視点, 力学的視点から意識して観賞するように心がけよう。 時には空間を眺め, 町づくりに触れてみよう。					
本校教育目標との対応	(3) (6)		JABEEの学習・教育目標との対応				

科目名	測量学及び同実習 I (Surveying and Surveying Practice I)					対象クラス	建築社会デザイン工 学科1年
教員名 (所属学科)	橋本淳也・浦野登志雄 (建築社会デザイン工 学科)	開講期間	通年	授業形式	実習	科目区分	専門基礎
教員室位置	専門A棟 1F	授業時数	60	単位数	2		必修
教科書	「測量学」大木正喜著、森北出版						
参考書	「よくわかる測量実習」細川吉晴他 共著、コロナ社						
関連科目	測量学及び同実習II、土木設計演習I、インターンシップ						
科目概要	測量は土木建築構造物の計画・設計・施工の基礎となる必要不可欠な技術である。本科目では土木建築において必要性の高い測量法について学習する。土木建築の工事を行う上で必要な測量の基礎知識と技能を習得することを目的とする。授業形態としては、測量法ごとに、目的、原理や測定手順、器械の操作方法を講義し理解を深めさせ、さらに実習を通して基本的技能を体得させる。実習では2名の教員で実技指導にあたる。						
授業方針	測量法ごとに、目的、原理や測定手順、器械の操作方法を講義し理解を深めさせる。さらに、実習を通して基本的技能を体得させる。						
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 距離測量に必要な機器の取り扱い、測り方、巻尺の特性を理解する。 2. 水準測量の原理を理解し、昇降式、器高式で測量することができる。水準測量の誤差調整ができる。 3. 角測量に必要な機器・器具の取り扱い方や測定方法を理解し、角度を測ることができる。 4. トラバース測量では、測定結果をもとにトラバース計算を行うことができる。 5. 平板測量に必要な機器・器具の取り扱いを理解し、平板を標定することができる。 6. 平板測量手法(放射法、導線法、交会法など)を用いて、細部測量の図面を作成することができる。 						
授業項目				授業項目			
1	ガイダンス	16	トラバース測量①	－概要－			
2	測量の基本事項	17	トラバース測量②	－角の閉合誤差－			
3	距離測量	18	トラバース測量③	－方位と方位角－			
4	水準測量①	19	トラバース測量④	－緯距・経距－			
5	水準測量②	20	トラバース測量⑤	－閉合誤差の調整－			
6	水準測量③	21	トラバース測量⑥	－実習：トラバース測量－			
7	水準測量④	22	トラバース測量⑦	－実習：トラバース測量－			
8	[中間試験]	23	[中間試験]				
9	前期中間試験の返却と解説	24	後期中間試験の返却と解説				
10	角測量①	25	平板測量①	－概要－			
11	角測量②	26	平板測量②	－平板測量手法－			
12	角測量③	27	平板測量③	－平板測量の応用－			
13	角測量④	28	平板測量④	－実習：骨組測量－			
14	角測量⑤	29	平板測量⑤	－実習：細部測量－			
	[前期末試験]		[後期学年末試験]				
15	前期末試験の返却と解説	30	学年末試験の返却と解説				
評価方法及び総合評価	* 4回の定期試験および演習・実習により、具体的目標項目の達成度を評価する。 * 試験(65～75%)、実習・レポート(25～35%)とし、60点以上を合格とする。						
備考	学習方法	演習を通して理解度を確認し、家庭学習に生かす。 次回の予告の中で、必要な基本事項(これまでに習得している単元)を示すので、復習しておくこと。					
	学生へのメッセージ	とにかく器械に触れ、操作に慣れてほしい。計算も多いが面倒がらずにがんばれ！ 理論の説明では数学が必要。特に三角関数はしっかり復習しておこう。					
学修単位への対応							
本校教育目標との対応	(3)	生産システム工学教育プログラムにおける学習・教育目標との対応					

科目名	エンジニア総合学習 (Integrated Study for Engineering)				対象クラス	建築社会デザイン工学科 1年～3年	
教員名 (所属学科)	学科長・1年～3年担任 (建築 社会デザイン工学科)	開講期間	1年～ 3年	授業形式	HR活動	科目区分	総合科目
教員室位置	専門A棟、一般棟	授業時数	30	単位数	1		必修
教科書	特に指定しない。						
参考書	特に指定しない。						
関連科目	関連するセミナーとして、4年での進路セミナーとインターンシップがある。						
科目概要	本校の理念・教育目標に基づき、各学年のHR活動の一環として低学年次に3年間を通じて実施する技術者育成の教育プログラムとして位置付け、「①社会性・人間性を育てる」「②進路を考える」の2つを大きな目標として掲げ、本校における学業意識の向上と目標設定のサポートをすることを目的とする。						
授業方針	1年から3年までの間で、各学年で10時間ずつのテーマを設定し、HR活動の中で実施する。具体的なテーマについては、担任より連絡がある。また、自己点検として「学習等記録簿」と「学習点検シート」の記録を行う。						
授業項目		時間	達成目標 (修得すべき内容)				
〔1年〕例 ・阿蘇研修の準備 ・ビデオ鑑賞による職業観の育成 ・定期試験の反省		10	〔社会性・人間性を育てる〕 1. 自己分析を行い、状況に応じて自分の意見の主張や行動について決断することができる。 2. 集団行動の中で、周囲と強調して物事の達成に向けて行動することが出来る。 3. 自然や社会について理解を深めることが出来る。				
〔2年〕例 ・図書館の活用について考える ・高専祭への作品展示の準備と作業 ・ビデオ鑑賞による職業観の育成 ・バス見学による専門分野の理解		10	〔進路を考える〕 4. 自分の将来について考え、将来設計を行うことが出来る。 5. 自己学習の習慣が付いている。 6. 卒業後して社会人になるための職業観をもつことが出来る。				
〔3年〕例 ・3年生としての自覚 (マナー教育) ・進路を考える ・留学生紹介 ・バス見学による専門分野の理解		10					
評価方法及び総合評価	<ul style="list-style-type: none"> * 担任からの3年間の実施報告書により、3年間の実施時間が30時間をもって単位を認定する。 * 成績評価は「合格」とする。 * 留年した学生については、留年した学年のエンジニア総合学習を再度受講するものとする。 * 留学生については、3年次の10時間に出席することとする。 						
備考	学習方法	常に情報収集に心がけ、各自の知識を増やすことが必要である。新聞を毎日読み、図書館やインターネットを活用して、日々の社会情勢や専門業界の動きに興味を持つこと。					
	学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ◇ エンジニア総合学習は、学習以外での本校の技術者教育プログラムの一環として実施している。それぞれのテーマについては、担任から説明がなされるが、学生諸君は積極的に参加してもらいたい。 ◇ 日々の社会情勢を知ることも社会人として必要なことである。毎日新聞を読む習慣をつけましょう。 ◇ インターネットや図書館を活用し、エンジニアになる志を持って日々の学習に励みましょう。 					
学修単位への対応							
本校教育目標との対応	(4) (5) (6)	生産システム工学教育プログラムにおける学習・教育目標との対応					

科目名	創造セミナー(Engineering Creative Seminar)				対象クラス	全学年	
教員名 (所属学科)	(代)中村 裕一 (建築社会デザイン工学科)	開講期間	随時 開講	授業形式	演習	科目区分	特別選択科目
教員室位置	専門科目棟 2F	授業時数	—	単位数	1		選択
教科書	特に指定はない						
参考書	特に指定はない						
関連科目	担当教員に問い合わせること。						
科目概要	<p>本科目は、学生自らが知的好奇心や探究心をもって考える力や、自由な発想や創造力を養う科目である。「モノづくり」の力を養うためには、決められた条件の下で、各自の個性を發揮し、自らが主体性を持って取り組むことが必要である。具体的には、オープンキャンパスや高専祭などの学校行事で実施される学科展示の企画・運営・補助、情報処理センター主催の公開講座での講師補助、学科の公開講座でのパソコン支援、さらに建築系の各種コンペへの応募や外部団体への論文投稿などがあげられる。他には、毎年開催されるロボットコンテストやプログラミングコンテストへの参加もある。これらの活動や取り組みに対して、報告書を提出した後に学科会議を経て単位を認定するプログラムである。</p>						
授業方針	<p>開講時間は特に指定せず、4時間目以降の空き時間を活用して取り組むこととする。原則として、本科目のプログラムの認定を希望する学生は、取り組む内容や計画と経過などをまとめた報告書の提出を義務とし、指導教員を学生から依頼すること。本科目の目的は、学生が自主的に活動に取り組み、それぞれの個性を發揮することにある。その中で、様々な問題点を解決する能力や、企画・立案、創造から実現へのプロセスや方法が養われる。授業などでは取り扱わないテーマなど、様々なテーマがあるので、率先して本セミナーのプログラムを活用して欲しい。</p>						
	授業項目			授業項目			
	<p>代表的なテーマを以下に示す。<u>これらのテーマに取り組む時は、代表教員と相談してから決定すること。</u></p> <p>◇学科展示</p> <p>○オープンキャンパス（7月）【5年担任 他】 中学3年生向けに学校開放日である。本科では、学科展示を分野ごと（構造、土質、建築など）で行っているため、これらの準備と当日の運営の補助を行った学生が認定対象となる。</p> <p>○高専祭（10月）【4年担任 他】 学校行事である高専祭での学科展示である。例年4年生が主体となっているが、他学年の参加も歓迎している。学科展示の企画、準備、運営に携わった学生が認定対象となる。</p>			<p>◇コンペ・コンテストなど</p> <p>○建築系の外部コンペへの応募【建築系教員】 建築分野では盛んにコンペを開いており、学生諸君も応募資格があるものもある。これらに応募した学生が認定対象となる。また、全国高専デザインコンペティションへの参加も含まれる。</p> <p>○地域の調査・発表会【全教員】 個人やグループが指導教員の元で地域を調査した内容などを外部で発表した学生が認定対象となる。</p> <p>○学会や協会への論文投稿【担任】 学会や協会が一般で公募している論文に投稿し、採用された学生が認定対象となる。投稿する前に教員と打ち合わせをすること。</p> <p>○プロコン・ロボコン【岩坪 他】 毎年全国規模で開催されるロボットコンテストやプログラミングコンテストへの参加も奨励する。いずれかのチームの一員として、企画からコンテストまで参加した学生が対象学生である。</p>			
評価方法及び総合評価	<p>学生が取り組んだテーマに対して、達成目標について評価を行う。達成度の確認は、報告書(90%)と指導教員からの評価(10%)によって行う。期末ごとに教室会議で確認し、単位発行は学年末の成績で行う。なお、学生は日々の取り組みを記録すること。</p>						
備考	学習方法	<ul style="list-style-type: none"> 各テーマの担当教員を訪ね、指示を仰ぐこと。 ほとんどのテーマは専門科目の応用であるが、実践で基礎を定着させてもらいたい。 					
	学生へのメッセージ	<p>上記のテーマ以外でも単位が認定されるテーマもあるので、担任とよく相談の上、率先して取り組んでもらいたい。 質問は随時担当教員が受け付ける。</p>					
学修単位への対応							
本校教育目標との対応	(6)	生産システム工学教育プログラムにおける学習・教育目標との対応					

科目名	専門特別セミナー (Engineering Extra Seminar)				対象クラス	全学年
教員名 (所属学科)	中村裕一 他 (建築社会デザイン工学科)	開講期間	随時開講	授業形式	演習	科目区分 特別選択科目
教員室位置	専門科目棟 1 F 中村教員室	授業時数	—	単位数	各テーマ 1 単位	選択
教科書	特に指定しない。					
参考書	適宜, 教員と相談すること。					
関連科目	「一般特別セミナー」 (英語検定試験)					
科目の概要	<p>本科目は資格取得などを通して、技術者としての自主性、社会性を高めさせることを目標とする科目である。本セミナーでは、学生自身が目標をそれぞれで設定することを基本とし、この目標を達成したときに単位として認定を行うプログラムである。本学科に関する代表的な外部試験と資格を授業スケジュールに示す。</p> <p>なお、<u>これ以外でも他大学・他高専での公開授業や企業が行うセミナーへの参加やその他の資格試験に対しても本単位を発行することがある。認定の申請や詳細は担任や学科長に申し出ること。</u></p>					
授業方針	<p>本セミナーは、学校外で実施されている様々な外部試験や資格取得、または学外でのセミナーへの自主的な取り組みに対して単位を認定するプログラムである。到達目標は、各自で設定し、これを達成できることを単位認定の基準とする。これからの技術者は自分で自分の技術を維持し高める努力をすることが要求される。本セミナーに積極的に取り組み、各自の Skill Up (技能向上) に勤めてもらいたい。また、学生からの申し出によっては、4 時間目の演習の時間の一部分で対策講座を実施することもあるので、希望があれば、担任か学科長へ相談すること。</p>					
	授業項目			授業項目		
	<p>代表的なテーマについて簡単に紹介する。〔 〕内は、本科での相談・支援の代表教員である。</p> <p>○測量士補〔岩部〕 測量士補は本校を卒業した後に申請すれば取得可能な資格であるが、在学中でも試験の後に取得が可能である。受験時のサポートは測量担当教員に相談すること。</p> <p>○工業英語検定 (3 級以上)〔教務委員〕 実用英語検定試験 (STEP) と並んで、国内で有名な英語資格の一つである。工業系の学生や社会人の受験が多い。3 級以上の級を合格したら単位として認定する。内容などは担当教員に相談すること。</p>			<p>○2 級土木施工管理技術検定 (種別: 土木) 学科試験〔岩坪〕 5 年生と専攻科生が対象である。実務で有益な資格である 2 級土木施工管理技術検定学科試験のみを受検することが出来る。合格して卒業後、実務経験を経て実地試験のみを受検することが出来る。</p> <p>○2 級建築施工管理技術検定 (種別: 建築) 学科試験〔浦野〕 前述の 2 級土木施工管理技術検定試験と同様である。</p> <p>○TOEIC (400 点以上)〔教務委員〕 最近、会社でも TOEIC 受験を義務付けている企業が多くなってきている。TOEIC は全世界共通の英語能力のレベルを示す試験であり、獲得したスコアが 400 点以上で単位を認定するものとする。</p>		
評価方法及び総合評価	<ul style="list-style-type: none"> * 本セミナー単位は、<u>学生からの報告書 (実習報告書) と認定書</u>などが申請された後に審議する。<u>申請する書類などは受験前に担任に相談すること。</u> * 成績評価は、<u>各テーマに取り組んだ時間が 30 時間以上のものを対象とする。</u> * 成績評価は、申請された段階で学科で審議し、合格となったものの評価は「A+」とする。発行は年度ごととする。 					
備考	学習方法	<ul style="list-style-type: none"> * それぞれの資格試験に関する科目を自主的に勉強すること。 * 勉強した記録を記録としてしっかりと残しておくこと。 				
	学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> * 本セミナーは、学生の向上心に対して単位を認定するものである。積極的に取り組んでもらいたい。 * テーマに関する専門の教員が質問を随時受け付ける。疑問点があれば、教員室を訪ねること。 				
学修単位への対応						
本校教育目標との対応	(3)	生産システム工学教育プログラムにおける学習・教育目標との対応				